

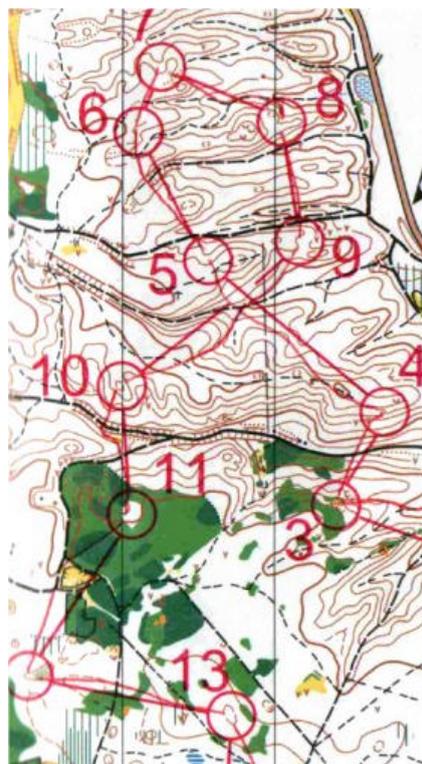
図書館情報大学3年の高橋雄哉選手、日本人初のミドル決勝進出まであと3秒!

ジュニア世界選手権大会
2004年7月4-11日
ポーランドグダンスク市



Aファイナルにあと3秒だった高橋のラストスパート

位~60位)に残ることは、JWOCに限らず現在の日本のオリエンティアにとっての大きな目標となっている。経験の浅いJWOC日本選手にとってこれは正に夢の夢。過去の大会ではBファイナル(61位~120位)に進出するのがやっとというレベルであったが、今回のJWOCは、その夢にあと3秒だったのだ。



ミドル決勝のコースと優勝者のルート

る限りポーランドのトレインが日本のものとそれほど違わないので、現地入りしてから対応できない選手が出てくるのが少ないことが予想できたことと、少しでも早くから選手同志がリレーのレースのことを考えられるようにするためである。



スーパーAの林をコントロールに向かう荒井

小見出し小見出し小見出し

今年のJWOCはポーランドのグダンスク市で7月4日~11日に開催された。日本からは、男女各6名の代表選手とオフィシャル4名の計16名が参加し、36ヶ国からの約300名の選手を相手に戦った。

<日本代表選手団>

男子選手:

高橋雄哉、山崎貴彦、大西康平、池陽平、鎌田健太郎、海老成正

女子選手:

原直子、渡邊りつ子、橋本陽子、荒井奈穂美、岡田瑛美、角田明子

オフィシャル:

尾上秀雄、李敬史、佐々木良宜、寺垣内航

世界規模の大会でAファイナル(1

1. 準備

ジュニアにとって初めての海外遠征を成功させるには、早くから高い意識を持って準備することが重要である。

今年度は昨年12月末のジュニア合宿や3月のインカレ講習会を通じて、JWOCを目指す選手に対する意識付けを行った。

JWOCの浸透度はここ数年深まってきており、4月の選考会には愛知での開催にもかかわらず70名もの選手が挑戦した。選考会後の3回の強化合宿では、例年通りJWOCのOB・OG及び選手の身近な先輩やコーチにも手伝ってもらって質の高いトレーニングを行った。またこの合宿では特にポーランドの旧地図を用いた机上練習も豊富に取り入れた。

またリレーチームのメンバーも最後の合宿の時に決めた。これは地図を見

2. トレキャン

ポーランドのトレインは日本で予想していた通り分かりやすいものだった。「草花丘陵や青梅を白くした感じ」(山崎)と言うように、尾根沢のはっきりした日本のトレインから倒木とやぶを取り払ったようなものなのだ。

さらに地面も硬くて走りやすく「走れ過ぎて歩測が合わなかった」(渡邊)ということはあったが、最初のトレキャンから全員が特に違和感無く帰って来られた。

地図が古くて道のランクがいい加減だったり穴が無かったりしたが、選手にはそのことを指摘する余裕すらあった。トレキャン全体を通じて、各自の課題は日本におけるそれと同じであることが確認された。例年に比べれば選手は全員、遥かに落ち着いた状態で大会に臨めたのではないかと思う。

3. 競技

競技初日のミドル予選で高橋が32分半でゴールした。ウイニングが25~26分ということだったので125%程度かと思っていたら、3クラスの中で一番距離が長かったため1位のタイムは27分半。このクラスの1位は昨年のミドル優勝者のマチアス・メルツで、そこからトップ比118%という素晴らしいタイムになる。実際、速報版を見守っていると1クラス50名中の44名程度が掲示された段階でも、まだ17位に残っていて「もしかして」という思いが頭をよぎる。そばにいた顔見知りのイスラエルの選手は、掲示されていない残りのメンバーをチェックしてくれて、「もう大した選手はいないから大丈夫、おめでとう！」と早々と握手を求めてくる。最後のボードが運ばれてきた時、それまで20位だった高橋のボードが押し下げられ、女性陣から悲鳴が上がった。3秒差で夢が消えた瞬間だった。しかし初日のこの結果は他の選手にも元気を与えてくれた。

ミドル競技予選

<女子>

| 氏名 | 順位 | タイム | 比率 | コース |
|------------|------|-------|------|-------|
| Wicha I. | A-1 | 25:21 | 100% | 3600m |
| A-final | A-20 | 29:30 | 116% | |
| 角田明子 | A-41 | 44:06 | 174% | 44名 |
| 荒井奈穂美 | A-43 | 45:18 | 179% | |
| Allston H. | B-1 | 25:13 | 100% | 3600m |
| A-final | B-20 | 30:03 | 119% | |
| 原直子 | B-32 | 32:29 | 129% | 43名 |
| 渡邊りつ子 | B-43 | 55:21 | 219% | |
| Fincle A. | C-1 | 24:04 | 100% | 3500m |
| A-final | C-20 | 29:02 | 121% | |
| 橋本陽子 | C-39 | 36:36 | 152% | 43名 |
| 岡田瑛美 | C-42 | 43:23 | 180% | |

<男子>

| 氏名 | 順位 | タイム | 比率 | コース |
|--------------|------|-------|------|-------|
| Kowalczyk J. | A-1 | 26:26 | 100% | 4400m |
| A-final | A-20 | 30:36 | 121% | |
| 大西康平 | A-36 | 34:23 | 136% | 50名 |
| 海老成直 | A-45 | 44:48 | 177% | |
| Merz M. | B-1 | 27:38 | 100% | 4500m |
| A-final | B-20 | 32:29 | 129% | |
| 高橋雄哉 | B-21 | 32:32 | 129% | 51名 |
| 鎌田健太郎 | B-49 | 42:29 | 168% | |
| Komanec V. | C-1 | 26:20 | 100% | 4300m |
| A-final | C-20 | 28:47 | 120% | |
| 山崎貴彦 | C-38 | 32:34 | 135% | 49名 |
| 池陽平 | C-44 | 36:47 | 153% | |

リレーもチームでの話し合いが時間を掛けてできていたので、いつもと違う結果を期待したが、こちらは不発に終わった。リレーの話し合いの中では、

如何にリレーの特性を生かすか(他人を利用するか)ということばかりに議論が集中し、結果として基本的な部分でミスが出てしまったようだ。

日本的なテレインだったということで、いつもなら存在する緊張感が失われていたことも一因だろう。リレーに関しては机上の作戦だけでなく、もっと練習を積み重ねた準備が必要であり、これからの大きな課題である。



リレーのスタート直後の登り斜面

リレー競技

<女子> 23ヶ国 43チーム

| | | | |
|------------|---------------|----|--|
| 1 Sweden | 1:51:43(100%) | | |
| Skantze E. | 39:36 | 15 | |
| Persson A. | 36:48 | 1 | |
| Jansson H. | 35:19 | 1 | |
| 2 Finland | 1:53:41(102%) | | |
| 3 Norway | 1:54:16(102%) | | |
| 23 日本 | 3:08:54(169%) | | |
| 原直子 | 0:56:06 | 41 | |
| 橋本陽子 | 1:05:14 | 40 | |
| 荒井奈穂美 | 1:07:34 | 39 | |
| 日本2 dsq | | | |
| 岡田瑛美 | 1:17:36 | 43 | |
| 渡邊りつ子 | 1:19:05 | 41 | |
| 角田明子 | dsq | | |

<男子> 28ヶ国 50チーム

| | | | |
|------------------|---------------|----|--|
| 1 Sweden | 2:08:25(100%) | | |
| Lindahl J. | 45:30 | 13 | |
| Millinger M. | 42:53 | 1 | |
| Johansson M. | 40:02 | 1 | |
| 2 Czech Republic | 2:11:07(117%) | | |
| 3 Switzerland | 2:12:40(119%) | | |
| 28 日本 | 3:00:42(162%) | | |
| 高橋雄哉 | 0:56:35 | 44 | |
| 山崎貴彦 | 1:01:13 | 43 | |
| 海老成直 | 1:02:54 | 38 | |
| 日本2 dsq | | | |
| 大西康平 | 1:04:31 | 48 | |
| 鎌田健太郎 | 0:55:49 | 38 | |
| 池陽平 | dsq | | |

4. 総括

今回は、テレインに対する不安感がないとどんなレースができるのか、その可能性を示してくれた大会だと言える。これは2005年の世界選手権(愛知)にも同様に言えることで、来年は日本人選手の活躍が本当に期待できそうだ。

ロングは持久力、集中力など、どの

側面を取ってみても今のジュニアが好成績を期待することは難しいが、2年後から正式種目として予定されているスプリント競技は、その競技の特性から見て新しい可能性が出て来そうだ。是非多くの人に挑戦してもらいたいし、そのための仕掛けをして行きたいと思う。



ロング競技の女子トップ3

ロング競技

<女子>

| | |
|---------------|---------|
| 1 Tarvonen S. | 0:59:51 |
| 2 Stalder V. | 1:01:48 |
| 3 O'Neil A. | 1:02:22 |
| 118 原直子 | 1:39:24 |
| 122 岡田瑛美 | 1:55:38 |
| 123 荒井奈穂美 | 1:56:22 |
| 12 橋本陽子 | 1:58:23 |
| 126 渡邊りつ子 | 2:08:33 |
| 128 角田明子 | 2:22:07 |

<男子>

| | |
|----------------|---------|
| 1 Merz M. | 1:12:19 |
| 2 Johansson M. | 1:12:20 |
| 3 Krepsta S. | 1:12:29 |
| 96 高橋雄哉 | 1:30:19 |
| 131 山崎貴彦 | 1:46:22 |
| 136 池陽平 | 1:50:28 |
| 138 鎌田健太郎 | 1:51:41 |
| 139 大西康平 | 1:57:03 |
| 146 海老成直 | 2:10:28 |

